

令和5年度市内循環バス茶の花号実績報告について

運行経費

令和4年度57,404,705円に対し、令和5年度58,923,398円で、前年度比102.6%となっており、燃料費や光熱水費の高騰等により約150万円の増額となっています。

運賃収入

令和4年度7,310,432円に対し、令和5年度8,530,616円で、前年度比116.7%であり、大きく増加しています。

運行補償料

運賃収入が増加したものの、運行経費も増加したことから、令和4年度50,094,273円に対し、令和5年度50,392,782円で、前年比100.6%と増加しておりますが、収支比率については、令和5年度は14.5%で、前年度から約2ポイント上昇しています。

年間利用者数

令和4年度58,356人に対し、65,955人で、前年度比113.0%であり、大きく増加しています。

令和5年度の利用状況を新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前の令和元年度と比較しますと、運賃収入については約102.6%、利用者数については約94.9%と、新型コロナウイルス感染症感染拡大以前の水準までほぼ回復しており、新しい生活様式の中で、見直し後のルートの定着も進んでいるものと見られます。

市内循環バス茶の花号のあり方につきましては、引き続き、狭山市地域公共交通活性化協議会において狭山市地域公共交通計画を策定する中で、利用状況や堀兼地区デマンドバス実証運行の評価検証なども踏まえながら、ご協議いただきたいと考えております。